

## 利尻島における鯨類漂着等記録（～2015）

松石 隆<sup>1)</sup>・松田純佳<sup>1)</sup>・黒田実加<sup>1)</sup>・佐藤雅彦<sup>2)</sup>・佐藤里恵<sup>3)</sup>・石川 創<sup>4)</sup>

<sup>1)</sup> 〒041-8611 北海道函館市港町3-1-1 北海道大学大学院水産科学研究院

<sup>2)</sup> 〒097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館

<sup>3)</sup> 〒097-0401 北海道利尻郡利尻町杵形字栄浜142 日本野鳥の会道北支部

<sup>4)</sup> 〒750-0036 山口県下関市あるかぼーと6-1 公益財団法人下関海洋科学アカデミー鯨類研究室

## Stranding Records of Cetaceans from Rishiri Island (—2015)

Takashi MATSUISHI<sup>1)</sup>, Ayaka MATSUDA<sup>1)</sup>, Mika KURODA<sup>1)</sup>, Masahiko SATO<sup>2)</sup>, Rie SATO<sup>3)</sup> and Hajime ISHIKAWA<sup>4)</sup>

<sup>1)</sup>Faculty of Fisheries Sciences, Hokkaido University, Minato, Hakodate, Hokkaido, 041-8611 Japan

<sup>2)</sup>Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan

<sup>3)</sup>Do-hoku branch, Wild Bird Society of Japan, 142, Sakaehama, Kutsugata, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0401 Japan

<sup>4)</sup>Whale Laboratory, Shimonoseki Academy of Marine Science, Arcaport, Shimonoseki, Yamaguchi, 750-0036 Japan

**Abstract.** Rishiri Island is located in the Sea of Japan off the northwest coast of Hokkaido, Japan. Stranding records for this island could be important information in understanding the migration patterns of cetaceans in the Sea of Japan. A total of 21 stranding records were collected. Each stranding record consists of one individual. The records include six Stejneger's beaked whales *Mesoplodon stejnegeri* (including one unidentified *Mesoplodon*); four Dall's porpoises *Phocoenoides dalli* (one truei-type, two dalli-type and one type unidentified); four harbor porpoises *Phocoena phocoena*; three Baird's beaked whales *Berardius bairdii*; one killer whale *Orcinus orca*; one beluga *Delphinapterus leucas* (sighting); and two unidentified cetaceans.

**Keywords:** Rishiri Island, stranding, cetacean, Stejneger's beaked whale, Dall's porpoise.

### はじめに

利尻島は、北海道西岸日本海に位置し、主として対馬暖流の影響を受ける離島である。日本海に生息する鯨類がオホーツク海へ回遊する際に利尻島の近くを回遊すると考えられ、利尻島に漂着する鯨類の記録は、日本海に生息する鯨類の分布回遊を知る手がかりになる可能性が有る。

本島における鯨類の漂着は、明治時代から記録に残されてきたが、種同定や標本保存が行われるようになったのは1990年代以降のことであった。1997年10月から1998年2月の間に、ツチクジ

ラ *Berardius bairdii* (1997年10月21日)、オウギハクジラ *Mesoplodon stejnegeri* (1998年2月16日)、ネズミイルカ *Phocoena phocoena* (1998年3月16日)の漂着があり、その時点で国立科学博物館海棲哺乳類漂着データベースに記録があったオウギハクジラ (1993年1月5日)とあわせて報告がなされている (佐藤・山田, 1999)。その後、整理された情報や発生した漂着情報が、日本鯨類研究所、国立科学博物館、およびこれらの情報を取り込んだ下関鯨類研究室ストランディングデータベースに蓄積された。

2007年にストランディングネットワーク北海道(SNH)が発足し、積極的に北海道内の鯨類漂着情報を収集するようになってから4件の漂着があり、特に2015年4月11日に漂着したオウギハクジラについては、SNHが現場に赴いて詳細な調査を実施した。

本稿では、これらの情報をとりまとめ、現在確認されている利尻島における鯨類の漂着情報を可能な限り網羅した。

なお、鯨類漂着情報をお寄せいただいたほか、処理や調査などにもご尽力いただいた利尻町および利尻富士町の職員、島民の方々に心から感謝申し上げる。

### 利尻島における鯨類漂着等情報

下関鯨類研究室ストランディングデータベース(石川, 2013, 2014, 2015), ストランディングネットワーク北海道データベース <http://kujira110.com>, および利尻町立博物館に記録されていた利尻島への鯨類漂着等記録を表1に示した。

全21件は、全て1件1個体で、そのうち、オウギハクジラ(オウギハクジラ属種不明鯨類1個体を含む)が6個体と最も多く、イシイルカ *Phocoenoides dalli* 4個体(リクゼンイルカ型1個体、イシイルカ型2個体、型不明1個体)、ネズミイルカ4個体(「ネズミイルカらしい」1件を含む)、



図1. イシイルカ(イシイルカ型)(2008年6月11日, 利尻富士町鷺泊港町海岸), 図2. イシイルカ(イシイルカ型)(2008年6月11日, 利尻富士町鷺泊港町海岸, 救出状況), 図3. ツチクジラ(2010年8月18日, 利尻富士町鷺泊海岸), 図4. ツチクジラ(2011年2月9日, 利尻町杵形字蘭泊海岸), 図5. ツチクジラ(2011年2月9日, 利尻町杵形字蘭泊海岸, 頭部).

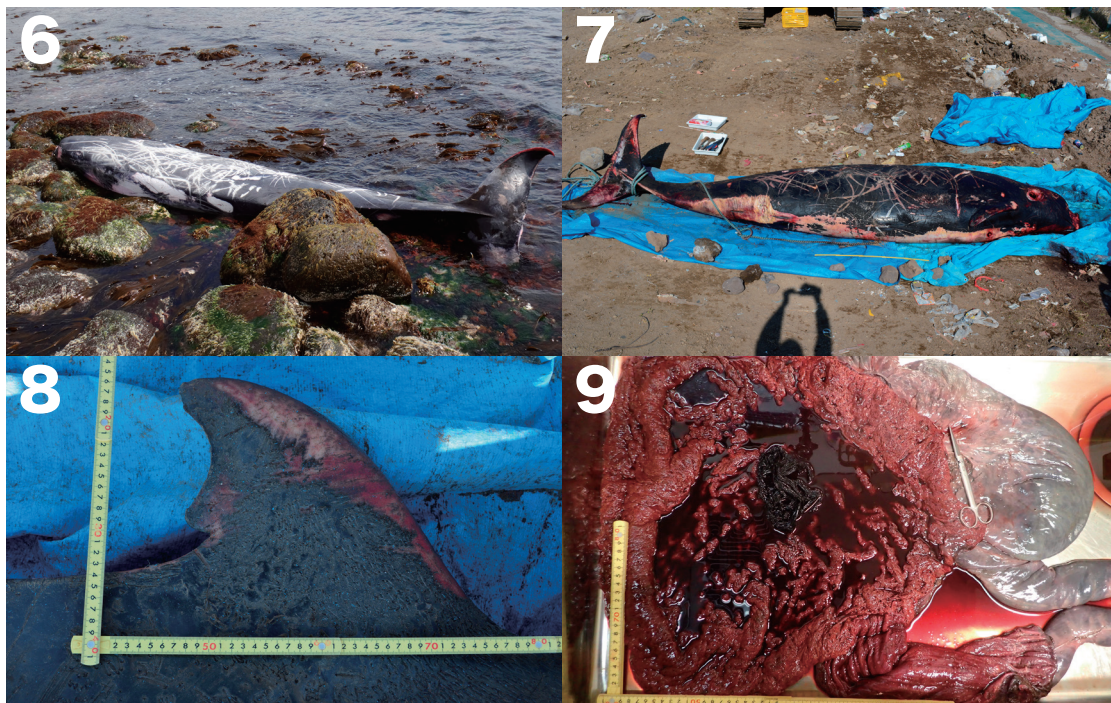


図6-9. オウギハクジラ（2015年4月11日，利尻町杵形）. 6: 漂着状況，7: 全身，8: 背びれ，9: 前胃から発見されたビニール片.

ツチクジラ 3 個体，シャチ *Orcinus orca* 1 個体，  
 ベルーガ *Delphinapterus leucas*（目撃報告）1 個  
 体，種不明鯨類が各 2 個体であった。

以下特筆すべき漂着等事例を報告する。

#### 1998 年のベルーガ目撃

稚内水産試験場試験調査船北洋丸が利尻富士町  
 鴛泊港沖 1km にて ROV（水中ロボットカメラ）試  
 験を実施していたところ，ベルーガ 1 個体が ROV  
 に接近し，撮影された（北海道立中央水産試験場，  
 1999）漂着ではないが，希有な事象であるので記  
 載する。

#### 2008 年のイシイルカ（SNH08035）漂着

2008 年 6 月 11 日午後，利尻富士町鴛泊港町海  
 岸においてイルカがもがいているのを観光客が発見  
 し，バスガイドが町職員へ通報した。体長約 1m の  
 イシイルカ（イシイルカ型）で，口の先から出血が  
 見られ，多少の傷があったが大きな外傷はなかつ  
 た。漁業者の協力により沖合に移送して放流した（図

1-2）。このいきさつは 2008 年 6 月 13 日北海道新  
 聞留萌・宗谷地方版朝刊に掲載された。

#### 2010 年のツチクジラ（SNH10050）漂着

2010 年 8 月 18 日 16 時頃，住民が利尻富士町鴛  
 泊字富士岬海岸線（45-15-18.6N，141-12-08.1E  
 付近）に鯨類が死亡・腐敗状態で漂着しているのを  
 発見した（図 3）。SNH は外部形態からツチクジラ  
 と同定した。利尻富士町が離岸・曳航し，鴛泊港か  
 らクレーンにてトレーラーに積載，利尻島清掃施設  
 組合一般廃棄物最終処分場に搬送し 8 月 20 日に埋  
 却処分した。その過程で，佐藤雅彦（利尻町立博物  
 館），佐藤里恵（野鳥の会道北支部）および山谷文  
 人（利尻富士町教育委員会）が調査し，外部形態測  
 定を行うとともに，SNH の要請により脂皮，歯若  
 干量を取得した。体長は 910cm であった。

#### 2011 年のツチクジラ（SNH11002）漂着

2011 年 2 月 9 日，北海道利尻町杵形字蘭泊海岸  
 （45-09-00.7N，141-09-15.2E 付近）に鯨類が死

表1. 今までに記録されている利尻島での鯨類の漂着等記録, 1作あたりの個体数は全て1個体である. 科博: 国立科学博物館, 日鯨研: 日本鯨類研究所, 利尻博: 利尻町立博物館, SNH: ストランドディングネグネットワーク北海道, O, RO, DO: は下関鯨類研究所登録番号, SNHはSNH登録番号, RTMM-は利尻博標本番号.

発見年月日	種名	学名	同定	性別	位置	状況	生/死	体長	備考	登録番号・標本番号
1993/1/5	オウギハクジラ	<i>Mesoplodon stejnegeri</i>	DNA/後藤睦夫(日鯨研) DNA	♀	利尻町香形字種富町岩場	漂着	死亡	約4.3m		O-170
1996/9/30	オウギハクジラ属種不明鯨類	<i>Mesoplodon spp.</i>		不明	利尻富士町大磯	漂着	死亡	不明	腹部に食害あり.	O-640
1997/10/21	ツククジラ	<i>Bevardius bairdii</i>	外部形態/山田格(科博)	不明	利尻町香形字新湊	漂着	死亡	約8 m	佐藤・山田(1999)に記載.	O-473, RTMM-123
1998/2/16	オウギハクジラ	<i>Mesoplodon stejnegeri</i>	外部形態/山田格(科博)	♀	利尻町香形字種富町	漂着	死亡	5.15m	佐藤・山田(1999)に記載.	RO-584, RTMM-124
1998/3/16	ネズミイルカ	<i>Phocoena phocoena</i>		不明	利尻町仙法志字字神磯	漂着	死亡	1.31m	佐藤・山田(1999)に記載.	RO-585, RTMM-122
1999/4/10	オウギハクジラ	<i>Mesoplodon stejnegeri</i>	DNA/後藤睦夫(日鯨研)	♂	利尻町仙法志御崎	漂流	死亡	不明	4月13日に利尻博が解体し科博に頭骨, 胸鱗, 頸椎, 背盤, 骨を送付.	O-637
1999/4/11	ネズミイルカ	<i>Phocoena phocoena</i>	外部形態/石川創(日鯨研)	♀	利尻町仙法志字神磯	漂着	死亡	1.65m	鮮度良. 胎児1をカラスが引き取っていた. 腹部にはそれ以外の胎児はないようだった. 上顎の歯を液浸にして保管.	O-642
1999/5/12	ペルーガ	<i>Delphinapterus leucas</i>	外部形態/椎内水産試験場	不明	利尻富士町鷺泊港沖1km	目撃情報	生存	不明	椎内水産試験場試験調査船北洋丸によるROV試験艇中に撮影.	EX-047
1999/5/31	イシイルカ	<i>Phocoenoides dalli</i>	頭骨形態/石川創(日鯨研)	不明	利尻富士町本泊港	漂着	死亡	1.78m	白骨化. 坂本里恵氏により発見. 利尻博は回収日を1999年6月30日と記録.	O-695, RTMM-173
2001/6/15	イシイルカ(リクゼンイルカ型)	<i>Phocoenoides dalli</i> (truei type)	外部形態/利尻博	不明	利尻町仙法志元村	迷入	生存	約1m	瀕死の状態で見られたが, 翌日不明となった.	DO-057
2001/6/26	イシイルカ(イシイルカ型)	<i>Phocoenoides dalli</i> (dalli type)	外部形態/利尻博	♂	利尻町仙法志字本町	漂着	死亡	2.28m	写真と計測あり. 頭骨を利尻博が保管.	DO-067
2002/10/4	種不明鯨類	Cetacean spp.		不明	利尻富士町鬼脇宇南浜	漂着	死亡	残部約3m	腐敗, ほぼ白骨化. 下半身のみ発見された. 後日波で流出した.	
2003/7/28	シャチ	<i>Orcinus orca</i>	外部形態/利尻博	不明	利尻町香形字柴浜地先	漂着	死亡	約6.5m	全身骨格を利尻博が所持した.	O-1463, RTMM-210
2004/2/??	ネズミイルカ?	<i>Phocoena phocoena</i>	外部形態/利尻博	不明	利尻富士町本泊	漂着	死亡	不明	頭骨と背骨, 肋骨(一部)を利尻博が回収.	RTMM-212
2004/7/10	クジラ頭骨一部	Unidentified Whale	外部形態/利尻博	不明	利尻町仙法志沖	漁具で回収	死亡	不明	ナマコ漁の八尺にはいついた.	RTMM-214
2006/3/31	ネズミイルカ	<i>Phocoena phocoena</i>	外部形態/利尻博	不明	利尻富士町鬼脇清川	漂着	死亡	1.27m	波打ち際にカラスに食べられており, 前肢が残る胸部から腹部にかけては皮脂, 内臓などがほとんど消失し, 肝臓などが残るのみ. 尾部は白化していたが, 頭部などはまだ黒い表皮が見られた. 下顎はわずかに破損するが, 歯はすべて残っていた. 頭骨を利尻博が所持.	RTMM-222

年月日	イシイルカ(イシイルカ型)	Phocoenoides dalli	外部形態/SNH	不明	利尻富士町鵜泊港町	漂着	生存→放流	約1m	岩場で発見。利尻富士町役場職員が漁船で沖に放流。	O-2390, SNH08035
2010/8/18	ツチクジラ	<i>Berardius bairdii</i>	外部形態/SNH	不明	利尻富士町鵜泊富士岬	漂着	死亡	9.1m	右下顎の大部分および左下顎の一部を利尻博とSNHが所持。	O-2961, SNH10050, RTMM-262, 263
2011/2/9	ツチクジラ	<i>Berardius bairdii</i>	外部形態/SNH	♀	利尻町杓形字蘭泊	漂着	死亡	9.7m	住民が発見し利尻町役場に通報。筋肉、脂皮、下顎骨(一部)はSNHが取得し、国内研究機関に譲渡。下顎骨(一部)は利尻博で保管。	O-3094, SNH11002, RTMM-264
2015/4/11	オウギハクジラ	<i>Mesoplodon stejnegeri</i>	外部形態/SNH	♂	利尻町杓形富士見町	漂着	死亡	4.776m	海岸で産産・死亡。SNHが処理場で解体・計測。左下顎の歯1点、歯に付着していたエポキシ樹脂を利尻博が所持。筋肉、脂皮、心臓、肺、じん臓、腸、すい臓、ひ臓、血液(各若干量)胃、生殖腺(全量)はSNHが取得し、国内研究機関に譲渡。	O-4394, SNH15010, RTMM-301, 302
2015/6/9	オウギハクジラ	<i>Mesoplodon stejnegeri</i>	外部形態/SNH	♀	利尻町仙法志字神磯	漂着	死亡	約5m	6月9日に利尻町役場に通報があったが、波などで処理ができず、翌10日、処分場にて埋設処理。	O-4476, SNH15018

亡・腐敗状態で漂着しているのを発見し、利尻町役場に通報した。SNHは外部形態からツチクジラと同定した。利尻町立博物館が外部形態測定を行うとともに、脂皮・筋肉(若干量)、下顎骨(一部)の標本を採取した。利尻町は現場より個体を杓形港に曳航しクレーンによりトレーラーに積載、利尻郡一般廃棄物最終処分場に移送し、埋立処分した。体長は970cm、性別は♀であった。ほぼ全身が白色で、口の基部の肉が破損し、そこには多数のクジラジラミ類の寄生がみられた(図4-5)。

### 2015年のオウギハクジラ(SNH15010)漂着

2015年4月11日、利尻町杓形、通称「かわっこ」の澗(45-11-04.4N 141-07-54.4E付近)に鯨が死亡・腐敗状態で打ち上がっている旨住民より利尻町役場に連絡があり、佐藤雅彦(利尻町立博物館)と佐藤里恵(野鳥の会道北支部)が現場を確認し、体長等の外部形態について調査するとともに、同日、SNHに通報した。利尻町は13日、現場より個体を杓形港に曳航し、クレーンによりダンプトラックに積載後、利尻郡一般廃棄物処理場に移送(図6-7)。14日にSNH調査員(松田純佳・黒田実加・神林潤)が写真撮影と外部形態測定ののち、剖検を行い、筋肉、脂皮、心臓、肺、じん臓、腸、すい臓、ひ臓、血液(各若干量)、歯(左)、胃、生殖腺(全量)の標本を採取した。利尻町は同日、埋立処分した。

体長は477.6cm、性別は♂で、腐敗が見られ下顎先端は一部欠損していた。体表面には成熟雄同士の闘争により生じたと考えられている擦過傷が明瞭に見られた。死後にできたとみられる海鳥等によると推察される食害跡が多数見られた。また、背びれには生前からあったと推察される切れ込みが見られた(図8)。致命的な外傷は見られず、剖検を行ったが腐敗が進んでおり、肉眼的な病変は特に観察されなかった。胃を現場で採材し、後日北海道大学函館キャンパスにおいて胃内容物調査を行った。意味のある餌生物は出現せず空胃であったが、前胃から黒色のビニール片が出現した(図9)。

**参考文献**

- 北海道立中央水産試験場, 1999. シロイルカの撮影に成功!. 北水試だより, (45): 5.
- 石川 創 (編), 2014. ストランディングレコード (2013年収集). 下関鯨類研究室報告 No. 2. pp.21-43. 下関海洋科学アカデミー鯨類研究室. 下関.
- 石川 創 (編), 2015. ストランディングレコード (2014年収集). 下関鯨類研究室報告 No. 3. pp.28-48. 下関海洋科学アカデミー鯨類研究室. 下関.
- 石川 創・後藤睦夫・茂越敏弘, 2013. 日本沿岸のストランディングレコード (1901~2012). 下関鯨類研究室報告 No. 1. 下関海洋科学アカデミー鯨類研究室. 下関. 314pp.
- 佐藤雅彦・山田 格, 1999. 利尻島におけるクジラ類漂着記録 (1997-1998). 利尻研究, (18): 93-95.